

<今回>255回目 2019年4月8日(月)15時~18時 603号室

読書は10冊目「失われた九州王朝」再読 p20序章 後漢書の立場から

<前回>254回目(19-3-25) 出席者 10名

資料(19-03-25-1)前回のまとめ(清水)

-2)東戸塚地区センターだより(榛葉)

-3)府中研究会(肥沼)

A 報告 今回から第2冊目の著作「失われた九州王朝」を読書会としては再読することにした。文庫本は角川書版を肥沼氏が手配した。当然最新のミネルヴァ版も参考にする。今回から東戸塚講座から山本充子さんが初参加。淀川さんも再出席されてにぎやかになる。高山氏、渡辺さんが出席されれば資料は12部必要になる。

返子の長柄桜山古墳を2年前の高山氏の計画通りで、3月29日か30日か、雨の少なさそうな29日にきめて有志に参加を呼び掛けた。参加は白石、初田、山本、清水の4名で実施した。古墳は急峻、資料館は閉鎖で残念。

B 資料 -2)東戸塚2019年度の計画が配布された。往復はがきで応募できる。抽選。

-3)国分寺、国衙研究をひとまず3月で終了すると肥沼氏からこれまでの研究経過の報告があった。川瀬氏との研究会を「府中研究会」として初めての方にも分かるように大きな武蔵国分寺付近の地図も持参されて発表があった。各地の国衙(郡衙、評衙)国分寺(国分尼寺)の遺跡調査を柱穴の重層関係から時代の前後を分析し、東偏、西偏、正方位の変遷があることを示した。これに権力の移行、盛衰を当てはめようとするもの。

その他「多元の会」の「万葉と漢文の会」の宋書東夷伝などの残部資料5部を押し付けた。読み方の分からない人は安藤多元会長に聞くことができる。

懇親会7名 津多屋13802円(2000・5+1500・2) -802円

C 読書 はじめに

- 1)三國志魏志倭人伝の邪馬壹国、卑弥呼の女王国は九州北岸の博多湾頭に臨んで存在した(第1書)。
- 2)朝鮮海峡の両岸にまたがった海峡国家、太平洋の西端に位置する航海国家の誕生と消滅に疑問と回答がこの書の課題である。
- 3)陳寿を信じ通すとは盲信ではなく、科学的に実証することなしに安易な「原文改定」を行わないという立場である。
- 4)後漢書、宋書、隋書、旧唐書の語る倭国像に対し中国史書を、その表現のルールに従って正確に解説する。日本書紀、古事記は8世紀に作られた。中国史書は同時代史料である。地動説に立たねば天文現象を説明しえないと同様、中国史書から日本史書分析しなければならない。
- 5)一番大切なことは学者や専門家にならず一人の素人として探究の旅にでることである。

目次を章ごとに一人一人読んでもらいました。序章・連鎖の論理、第1章邪馬壹国以前、第2章「倭の五王」の探究、第3章高句麗王碑と倭国の展開、第4章隣国にみる九州王朝、第5章九州王朝の領域と消滅  
ミネルヴァ版には補章と日本の生きた歴史(2)がつけられていて第10までである。最後にはそれも読みたい。

次回日程 19-4-22日(月) 15時から18時 1501号室

-5-13(月) 15時から18時 602号室

-5-27(月) 15時から18時 602号室

-6-3(月) 15時から18時 306号室